



俳句

中村比古先生選

蜻蛉や水輪作りて高々と
 草雲雀啼くだけ啼いて夜明けたり
 そこはかと旅のつかれや捨扇
 青柿に草むす晝の深みけり
 せうらぎや鶴鶴集ふ河原石
 草雲雀奥山深く一軒家
 海曇り心せわしき蟬の聲
 秋をさる伊豆山の木々色づけり
 煙草くゆらし秋立つ島を椽に見つ
 芋畑のつるかへしゐる少女かな
 濱風に海女吹かれ居り水著干す
 砂丘畑伸び後れたる甘藷かな
 遠つ海の静もりあるよ鯛雲
 病葉のじつと垂れ居り湯の匂ひ
 銀漢や露しみ／＼と旅ごろも
 せしきに苔光り居る天の川

清洲 清隆 普雨 清隆 紫煙 縁葉 草香 紫煙 清洲 藤影 芳月 紫煙 清洲 全人 正人 芳月

銀河澄む煙硝の香絶えしより
 惜別のさびしき扇鳴らしけり
 竿立て、銀漢仰ぐ夜釣かな
 月白し涼し砂丘の西瓜畑
 夜の秋や名残りの句座のふけるまし
 吾が想ひ彼の地につなげ天の川
 大輪の朝顔に友偲びたり
 涼しさの湧く瀬の音や天の川
 置いたやうに停車場があり西瓜畑
 新涼の夜の風動く別れるかな
 銀漢や信濃の空の澄めるより
 天の川開たゝへたる稻架の上
 銀漢や山容かぐろくしづまれる
 引き上げて井桁をぬらす西瓜かな
 天の川多摩の流に映りけり
 軸
 捨て兼ねし君が句扇や秋となる
 明日立ちの門に仰きぬ天の川
 沖荒れの潮うねり来し葉月かな
 黎明や夢の中なる草雲雀

潮鳴 正人 普雨 潮鳴 普雨 東岳 柏谷 清隆 正人 潮鳴 清洲 普雨 正人 春容 比古

蒲生村時報

第四二號

卷頭言

茲に昭和十年の初春を迎へ謹んで聖壽の万歳と國運の隆昌を祈り併せて村民各位の御健勝を祝福いたします。

偕て皆さん！ いよいよやつて來ましたぞ！
 異口同音に叫ばれて來た非常時一九三五年が。處する覺悟はよいですか？ 吾々は祖先が築上げた万邦無比の國体の精華を守護する許りが能ではない彌益光輝あらしめねばならぬ重責を擔つて居ます加之子々孫々に對しては忠實善良の指導者で有らねばなりませんまい。
 斯く考へ來る時今年こそ寧日としては有りえない。かてて加へて去秋の凶作は吾人の經濟に一大打撃を加へて苦めます。思へば多事多難の歳誠に痛感の極みです。さりとて悲觀や泣言では打開 出來ませんまい。

憂き事のなほ此上に積れかし
 限りある身の力ためさん
 の意氣で猛進するより外に途はないと信じます。先づ屠蘇を汲んで邪氣をおつ拂ふも可又難煮を重ねて元氣を養ふも可。そして緊陣一番力強く踏出さうでは有 ませんか。和協圓滿主義で理想郷の建設に共存共榮のそが爲に。いざ新春の當初から。

昭和十年一月七日 印刷納本
 昭和十年一月十日 發行
 埼玉縣南埼玉郡蒲生村大字蒲生二七五番地
 編輯・發行 蒲生村教育會代表者
 兼印刷人 淺見精一郎

表彰状

蒲生村立青年訓練所 金子正三郎
大熊清次郎

右ノ者日常眞面目ニシテ良ク出席勉勵シタルハ他ノ模範トス依テ之ヲ表彰ス
昭和九年十二月五日

蒲生村教育會

感謝状

蒲生村消防組

陸軍特別大演習並地方行幸ニ際シ警衛警備ニ協力セラレタルハ洵ニ感謝ノ至リニ不堪
仍テ茲ニ感謝ノ意ヲ表ス
昭和九年十一月三十日

警察部長埼玉縣書記官 從五位 勳六等 副見喬雄

表彰状

蒲生村消防組 組頭 淺見金一郎 (二等)

全 第二部 小頭 岩淵福太郎 (二等)

全 第三部 小頭 横川市太郎 (二等)

全 第一部 消防手 中野 梅吉 (三等)

全 第二部 消防手 濱野竹次郎 (三等)

全 第三部 消防手 須賀長太郎 (三等)

全 第四部 消防手 中野四五右衛門 (三等)

消防ノ進歩改善ニ力ヲ竭シ他ノ模範トスルニ足ル仍テ本會細則第六條ニヨリ 等功勞章ヲ贈與シ之ヲ表彰ス
昭和九年十二月五日

越ヶ谷警察署管内消防聯合會

總裁 長 島 林 平

水田裏作を奨む

蒲生村農會

稻を刈取つた後の水田に適當な作物を仕付けることは土地の利用を増す上からも、勢力の利用を進むる上からも非常に大切な事であつて、農業經營の改善上、又地力を増進して、水稻多收穫を劃する時當然考へなくてはならない問題であります。

田裏作や桑園の間作の奨勵に努力してゐるのであります。我が蒲生村は、水田三百余町歩の内、裏作可能面積は約二百町歩でありましたが耕地整理完成後は増加するのでありますが現在裏作に利用せられてゐるのは僅少でまだ、作付出來得る否作付しなければならぬ土地が多いのであります。皆さん農村不況です。凶作の後です、層一層御精勵なされ昨秋の降雨のため、又は稻の收納遅れて作付の好機を逸した方々

- 一、蔬菜 壹 籠
- 一、梨 果 壹 籠

右昭和九年十月十八日畏くも
天皇陛下 埼玉縣下行幸の御本郡農會より獻上願出候處幸に御嘉納被遊候是れ全く産業御奨勵の思召に外ならず本郡の名譽光榮之に過ぐるもの無之誠に感激不堪に候此段御披露申候

南埼玉郡農會長
蒲生村農會長

この心懸と考へ方如何はやがて農業經營の上に重大な結果をもたすこととなりますので今日國を擧げて水

は春作物から取がかつて収入増加のため御努力あらんことをお奨め致します。

談話室

本誌三頁に掲載御披露申しました献上蔬菜の中、慈姑は本村東組中野佐七氏の謹作品であります、この名譽この光榮當に同氏御一家のみにとどまらず、又以て我が村の光榮とする所であります

十月二十七日東京帝國大學農學部大賀一郎先生來村せられ登戸に於ける天王蓮に就て品種の特性を細かに御調査をなされ、生育の状況をスケッチ又寫眞にお撮りになられました先生は蓮の品種に就ては特に御研究深く天王蓮の沿革に就いて申さるるに

天王蓮を栽培するは東武地方のみに限る他にはなく早採栽培をなすもの全國に相當あるも皆他品種なり（近年九州、中國地方に種根の輸出若干あり）而して其の紀元は明治二十年頃北足立郡新田村清右工門新田一三八番地青羽仙藏氏（現主源藏氏の父）が千葉縣鹿野山に參詣の歸途木更津に於て蓮根の收

穫するを見物珍しく移栽を志し種根の分譲方を乞ひしに栽培期に來れとの事その時はそのまゝ歸り翌年更に行き持來り地の田に畝歩栽植したるが東武地方天王蓮栽培の創始にして其後蕃殖附近一帶に栽培するに至りたりといふ（木更津附近には明治二十五年頃天王蓮の栽培は絶へ現在は全く影を認めないといふ）

我が蒲生村へは大正四年登戸濱野竹次郎氏が長右工門新田本木與七氏（同氏の生家）より持來り東高野二八一五番地壹畝十五歩栽培してより普及し現在の盛況を見るに及んだのであります

- 十一月十六日午後一時村會が開會されました次の議案が可決されました
- 一、昭和九年度本村歳入歳出追加豫算
 - 二、橋梁架設工事施行に關する件
 - 三、縣費補助申請の件
 - 四、寄附を爲す件
 - 五、寄附受入に關する件

埼玉縣内壯丁にしてハルビン鐵道第三聯隊へ入營するもの三十名を淺見村長が引率して十一月二十三日東京驛出發全二十五日廣島練兵場に於て無事引渡を了しました

十月二十八日左の通り現役兵證書第一補充兵證書が交付せられました

氏名	入營部隊	入營期日
井田 吉松	歩兵第二十聯隊	昭和九年十一月一日
大熊長太郎	〃	〃
中野五郎	〃	〃
井田 象藏	〃	〃
金子三郎右衛門	〃	〃
金子三郎	近衛歩兵第一聯隊	昭和九年十二月十一日
秋山 誘治	歩兵第三聯隊	昭和十年一月廿日
大熊清次郎	〃	〃
淺見 西藏	飛行第九聯隊	昭和十年一月廿日
金子 爲彦	近衛野砲兵聯隊	〃
田熊喜代作	〃	〃

森田 万藏 關東軍野戰重砲兵第九聯隊昭和十年四月須賀 藤吉 關東軍電信第三大隊

●第一補充兵證書

鈴木 又兵衛	輜重兵特務兵
澁谷 基	〃
植竹 一二	歩兵
細沼 善吉	〃
中野 善次郎	〃
野本 清	〃
加藤 仁助	〃
金子 俊五郎	野砲兵
野本 宗治	〃
淺見 光三	野戰重砲兵

昨年の徴兵検査合格者中井田吉松、大熊長太郎（病氣の爲十一月一日歸郷）中野五郎、井田象藏、金子三郎右衛門の五君は十一月二十九日又金子三郎君は十二月十日より民多敷に送られ勇躍入營地向つて出發致しました

昨年一月入營以來軍務に精勵せられました中野二三男
鈴木庄藏兩君は十一月三十日森田伊藏君は十二月十日
無事満期除隊せられました

我が蒲生村出身の在營者の所屬部隊は十二月十五日調
次の通りであります

關根 治 代君 赤羽工兵第一大隊第一中隊
金子 啓 三君 台灣宜蘭守備隊
植竹 鹿 藏君 朝鮮羅南步兵第三聯隊第三中隊
齋藤 政 吉君 滿洲派遣軍四平街步兵第三十三聯
隊第七中隊
金子秋一郎君 軍艦八雲第一分隊
尾ヶ井 新次郎君 東京麻布步兵第三聯隊第十一中隊
第一班
中野 健 藏君 第七中隊第一班
井田 吉 松君 滿洲派遣 局子街村川部隊第六中
隊
中野 五 郎君 第五中隊
金子三郎右衛門君 第二機關銃隊
井田 彥 藏君 全 新站村田部隊第三中隊

金子 正 三 郎君 東京市麴町區代官町近衛歩兵第一
聯隊第十中隊第二班

入營兵健全祈願祭が本郡神職會主催で十二月二日越ヶ
谷町小學校講堂で行はれました、本村では總代で金子
庄三郎君が參列致しました

十二月六日消防組の點檢が小學校庭に於て點檢官長島
林平氏によつて執行せられました日頃斯迄に熱心な組
員の動作や操法は實に見事で着々設備の改善をすすめ
ざる等極めて成績佳良で慶賀に堪へないといふ講評
を得ました終つて巻頭に掲げたる如く大演習並地方行
幸に際し警衛警備に協力せられたる感謝狀及表彰狀並
に功勞章の授與がありました

本年度我が村の壯丁は四十名であり去る十二月八
日越ヶ谷町小學校に於てトラホーム及花柳病の檢診が
施行せられました
幸にも花柳病者は一名もなくトラホーム患者が僅三
名あるのみでありました

教化彙報

土・三月份

◎小學校便り

神社參拜 十一月一日各字毎に行ふ

一齊考查 算術一齊考查十一月一日行ふ成績優良者中

野春吉外八十二名

明治節祝賀式 十一月三日午前九時中村助役、小池巡

査參列して舉式校長より講話あり

東北學事視察 十一月五日より十日まで校長東北地方

學事及凶作地視察す

体育デー 十一月五日球技を重じたる体育を行ふ中に

も部落對抗のドッチボール、職員對高等科のバスケ

ットボールは面白かりき

いなご取り 十月中一回及十一月六日いなご取りをな

す計一石九升代金六圓五拾四錢也

衛生デー 十一月九日校舎内外の大掃除を行ふ

家事裁縫研究會 十一月十二日越ヶ谷部内各校主任十

五名參觀す 第一時公開教授 第二時尋四裁縫(毛

利訓導)尋六裁縫(荻野教員) 第三時高等科家事(

野中訓導)の研究教授を行ひ午後は批評會を催す

千葉縣下學事視察 十一月十三、四日川邊訓導出張す

行幸遙拜式 十一月十八日畏くも 天皇陛下大宮氷

川神社埼玉縣廳に行幸遊ばる本村は各種團體と共に

小學校に遙拜式を行へ氷川神社に賜りたる勅語の奉

讀聖壽の萬歳を三唱し奉る

天覽成績品入選 尋五圖書 秋山隆男

ドイツ人音樂會 十一月二十日ドイツ人より國際音樂

會聴く

越ヶ谷高女ドッチボール及成績品展覽會 十一月廿四

日舉行入賞者 尋一圖書植竹和男、尋二神谷利和

高一手工中野富美代

教育講習會 十一月廿五日越ヶ谷へ齋藤、野中、毛利

訓導出席す

校內研究教授 十一月廿八日野中訓導尋二ノ一算術を

行ふ

神社參拜 十二月一日

校長會 十二月四日

兒童成績品展覽會 聖護院大極品評會、敬老會、高等

科兒童父兄招待會十一月七日舉行實習地よりの收

納米の紅白の餅おしろこを試食なし兒童の學藝、齋藤先生の講話、柳亭の百面相に興を増し午後四時半盛會裡に終了

聖誕院大根競作入賞者 一等尋五齋藤一男、二等尋五

神谷輝雄、高一關根みや、三等淺見甲子男外十二名貯金デー 十二月一日、十一日、廿一日

衛生デー 十二月十四日校舎内外の大掃除を行ふ

讀方一齊考查 十二月十三日行ふ成績優良

實習地收納米検査 十二月十四日二俵行ふ

漬物講習 十二月十五日農事試験場に行はれ野中訓導出張

教員剣道會 十二月十五日午後越ヶ谷校に開く校長及齋藤訓導出席及本村少年團の少年武道を行ふ

師範學校長參觀 十二月十七日有元師範學校長は高木訓導を同伴し本校の教育實際を參觀し懇切なる指導をなす第四時公開教授(全級)第五時尋四以上の公開教授の終りて講習會

◎公民學校便り

始業式 十二月一日授業開始す 學科擔任は修身、公

民(秋山、齋藤)國語(川邊、松本)數學(川邊、黒田 農業、理科(萩島)武道(秋山、齋藤、黒田)

皆勤者 森田喜一、井上良太郎、森田一年、内海亀吉

森田哲雄、上野總八郎、田熊龜之助、森田文右衛門 鈴木金三郎、谷塚夏吉、淺見義雄、淺見勝代

◎青年訓練所

訓練日 九日間(十一、十二月中)

消防に盡力 十一月五日訓練時中伊原に小火あり金子(新、誠)兩指導員直に生徒を指揮し消火につとめ同所より感謝の書狀をよせられたり

高崎市郊外野營 十一月十六日、十七日、十八日三日間埼玉外五縣の聯合青年の野營に参加す

御親閱 十一月十七日秋山主事外五名高崎市練兵場に於て御親閱を仰ぎ奉る感泣す

查閱 十一月廿五日大相模校に於て蒲生、川柳、大相模三ヶ村訓練所受閱す 查閱官宮本中佐 出席者秋山主事外四十五名中村助役、中尾團長參列す 出席及備品共優良にして賞詞さる

生徒賞詞者は金子庄三郎、大熊清次郎、金子爲彦、

佐藤あい御親閱を仰ぎ奉る感泣す

敬老會 十二月七日小學校と合同し催し記念の湯吞を贈りおまるこの接待をなす

處女の友廻覽す 十一月、十二月發送

瀧谷吉長

雇傭主にして雇人をよく出席致されたるにより査閱官より左記の方に感謝狀贈らる

清村善藏氏、中村晴彦氏、中尾參造氏、駒崎新吉氏

川島春吉氏、鈴木りよ氏、

終了證書授與 十二月五日金子正三郎、大熊清次郎に終了證書授與せらる

皆勤者 中野彌吉、田中延吉、平林豊吉、金子梅吉、

大熊利平、中野了、谷塚夏吉、瀧谷富一郎、鈴木勘次郎、瀧谷武一、金子金太郎、須賀長次郎、尾ヶ井忠作、濱野繁輔、大熊清次郎、金子正三郎

◎男子青年團便り

御親閱豫行演習 十一月七日柏壁中學校に於て行ふ

幹事會 十一月十三日本年は品評會を省く

御親閱 十一月十七日高崎練兵場に於て金子博、中野保夫、株竹茂雄御親閱を仰ぎ奉り一同感泣す

◎女子青年團便り

御親閱 十一月十七日高崎市練兵場に於て野中弘子、

御親閱 十一月十七日高崎市練兵場に於て野中弘子、

蒲生村教育會

謹賀新年

昭和十年元旦

蒲生村教育會

蒲生村農會

蒲生信用販賣組合

役職員一同

時報會計報告 (昭和九年分)

収入之部

一金五拾圓也 蒲生村より補助金
 一金四拾圓也 蒲生信販購組合より補助金
 一金拾五圓也 蒲生村農會より補助金
 一金貳圓也 植竹鹿藏君より寄附
 一金四拾圓也 編輯部員より寄附
 収入合計金壹百四拾七円也

支出之部

一金八拾七圓六拾參錢也 昭和八年度不足金
 一金拾壹圓五拾錢也 時報第三十八號印刷費
 一金拾圓八拾錢也 時報第三十九號印刷費
 一金拾圓八拾錢也 時報第四十號印刷費
 一金八圓貳拾五錢也 時報第四十一號印刷費
 一金貳圓四拾錢也 寫眞版二ヶ代
 一金四拾錢也 郵便切手代
 支出合計金壹百參拾壹圓七拾八錢也
 差引殘金拾五圓貳拾貳錢也
 右之通りニ候也

昭和十年一月 蒲生村時報會計係 萩 島 力 藏

明けまして

御芽出度う御座います

蒲生村時報も御蔭様で六才の年を迎えました、過去を
 自省いたしますと實にお恥しい次第であります。
 昭和十年の初春を機會に一層可愛がつて頂く機應命に
 編輯するつもりでありますから皆様の雜誌と思召し改
 良の御意見がありましたらどし／＼御注意を願ひたう
 存じます

昭和十年一月元旦

蒲生村教育會内

蒲生村時報編輯部

篤志寄附

中野源之助氏より 小學校へ裁縫用掛圖四枚金九圓也
 奥野英俊より 小學校運動會へ金貳圓也
 中尾參造氏より 同
 平井庄吉氏より 同
 協立舍より 同
 半紙一ヶ
 風船十個
 朝日新聞用小旗三百五本

埼玉縣穀物協會で十二月一日昭和九年度産米の取引格
 差を次の通り發表致しました

定

昭和九年 米 取引 格 差 (壹俵建)

等級	水稻粳	水稻糯	陸稻粳糯
一等	五十錢上	九十錢上	略
二等	三十五錢上	七十錢上	
三等	二十錢上	四十錢上	
四等	標 準	標 準	
五等	二十五錢下		
等外	六十五錢上下	四十錢上下	

告

滿洲獨立守備隊へ入營中の歩兵上等兵關根戸一
 郎君は昨年十二月十四日間島省明月滿南方の戦
 闘に於て頭部に貫通銃創を受け名譽の戦死を遂
 げたり茲に村民を代表し謹んで哀悼の意を表す

昭和十年一月 蒲 生 村 長

謹 賀 新 年

蒲生村々會議員一同
 蒲生村役場吏員一同
 耕地 整理 組合
 在郷軍人會 蒲生村分會
 蒲生尋常高等小學團
 蒲生村立青年訓練所
 蒲 生 村 青 年 團
 蒲生村女子青年團
 役職員一同

俳句

中村比古先生選

霜や降る月の莖や山羊の鳴く
御火焼にほてりし頬をなでにけり
枯芦や小寒き風に舟を操る
霜夜更けて風身にしも暮舎かな
枯芦の山岸側は日陰けりぬ
色變る霜焼け菊の日毎かな
御火焼の火の白どつと崩れけり
白菜の霜に練られし畑かな
鷺飛びて亦静かなり霜河原
御火焼の森黒々と火の子湧く
初霜や拾穂殻の白々さ
枯芦にひねもす風の渡りけり
酉の市聲朗らかに熊手賣り
枯芦に陽のかたよりし入江かな
御火焼や宮の薨も赤々と
御火焼やはこりし顔を輪に並ぶ

草山 東岳 普雨 清洲 全人 東岳 栗原 普雨 東岳 紫隆 東岳 芳岳 普雨

御火焼のばちく火の粉ふらしたり
御火焼のほてり冷たる夜道かな
枯芦に小鳥落込む日暮かな
寺の庭霜とけそめて晝静か
大霜や薄ら陽が朝の庭にあり
御火焼の残り小さく明けにけり
霜除けの笹白々と密柑畑
山疲れを枯芦敷いて慰ひけり
枯芦に水の傳ふる汽笛かな
暮舎白々又銃に山の霜夜かな
枯芦分けてふるせに漁る子ごちかな
背の子にも鈴鳴らさせて酉詣で
軸
霜夜かな露營の夢の結ばれず
枯芦に鳩の波紋の屈きけり
枯芦の葉々光らせて落陽かな
森透いて御火焼の火の見ゆるかな
舟の灯のちらと見えけり芦枯て

清洲 東岳 東岳 芳岳 清隆 清隆 東岳 普洲 全人 比古

蒲生村時報

第四三號

昭和十年六月七日 印刷納本
昭和十年六月十日 發行
埼玉縣南埼玉郡蒲生村大字蒲生二七七五番地
編輯發行 蒲生村教育會代表者
兼印刷人 淺見精一郎

卷頭言

大日本帝國臣民として附與された權利の擁護は固より結構なことであるが、これと同時に當然履行すべき已れの義務を怠つては相濟まない。然るに人情の弱點は已れの權利の主張にのみこれつとめ、いざ已れの義務の履行となれば尻理窟をくつ附けて見たり泣言を並べ立てたりして兎角逃避したがる。共存共榮の上から誠に寒心に堪へないのは、已れの義務を果さないと恥である。外間が悪い社會國家に對して申譯がないと云ふ念慮、即ち義務觀念が頭腦から次第に遠ざかりつつあることである。わけても納稅義務の履行に就いてはこの恨みが深い。この秋に當り愛する我村に納稅義務の重大なることを自覺された一部の人が相倚り相携へて部落的にボツボツ納稅組合を組織されて來たことは自治行政の爲にも國家興隆の爲にも定に御同慶の至りでは是非共將來この美風を全村隈なく漲らせたいものである。既に周知の通り實に納稅の義務は兵役の義務と共に國民の重大な義務である。一旦緩急ある其の時命を賭して忠節を定うる軍人精神と四六時中滯納督促は斷然受けぬと云ふ不斷の努力換言すれば緊張した納稅觀念とは邦家を思ふ點に於て毫も輕重はないのである。

畏くも明治大帝のみさとしに

國をおもふ道に二つはなかりけり
軍の場にたつともたいぬも。